

# 1-3 大切にしたい加美町の景観

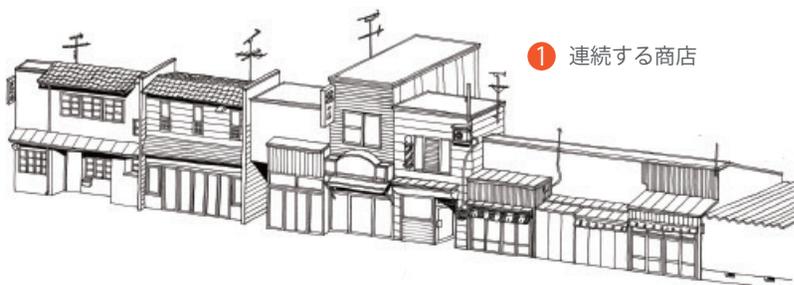
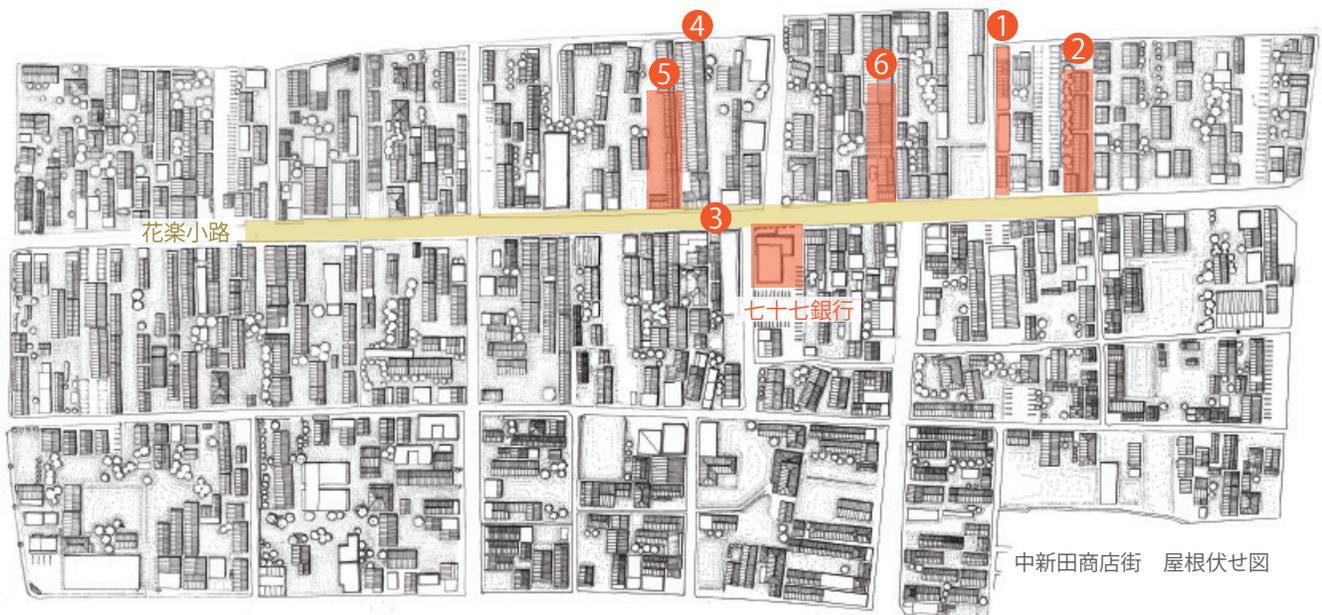
## ■加美町の景観

加美町は、薬菜山や船形山などの雄大な山々、鳴瀬川や田川などの恵まれた自然環境の中で、独自の歴史、文化が育まれ、住民の生活が営まれてきました。豊かな自然を活用した農林業が盛んに行われ、また、商店街を中心に人々の交流が生まれました。そして、このように住民が生活し活動を続けることで、加美町固有の景観が形成されてきました。

今ある景観を守り育てるためには、先人から受け継いだ自然や歴史・文化、なりわい等を途切れることのないように、後世に引き継がなければなりません。

## 加美町のなりわい

加美町のなりわいの中心地として商店街がありますが、近年、後継者不足や高齢化によって衰退が懸念されています。しかし、各地域の商店街で特徴的なまちなみが現在でも残っており、住民の方々にとって商店街は特別な場所になっています。



① 連続する商店

### 中新田商店街

中新田の商店街は、古くから商人のまちとして栄えてきました。今でも、3つの地域の中で最も規模が大きい商店街です。石畳の道路は、中新田商店街の特徴的な景観となっています。



② 商店・住居・蔵一体の建築

### 特徴的なまちなみ

中新田の商店街には、商店が道沿いに連なっている様子(上図)や、昔ながらの町屋の名残を残しています(下図)。町屋は表通りから、商店、住居、蔵・庭という構成になっています。



3 石畳の花楽小路商店街

石畳が敷かれた大通り

中新田の商店街といえば石畳で、商店街の外観は住民の方々にも多く支持されています。商店街の中には、空き家を改修して造られた「寅や」であったり、一本裏通りに入ると、蔵が連なる様子など中新田の商店街の中でもたくさんのまちなみがあることを実感することができます。また、酒蔵など歴史的に貴重な建物も商店街に残っています。



4 蔵の屋根にある虎舞の装飾



5 空き家を改修した寅や



6 伝統を守り続ける酒蔵

住民の記憶(『加美町記憶の口述史』より)

中新田商店街のまちなみ

中新田の商店街は、古くから町の中心的な場所でした。昔の活気を懐かしむ声などもたくさんありました。商店がたくさんあり、当時は生活も大分違っていたようです。(昭和前期～中期)



『よく行ったのは、近所の豆腐屋さん。「はい、これはお駄賃ね」ってお小遣いが貰える。一生懸命豆腐屋さんで豆腐作っているのを見るのも楽しみだったね。』

中新田・70代Kさん



『みんな店舗を構えて住んでいて、住まいとお店が別というのはあまりなかった。』

中新田・60代Sさん



『私の時代は町の中心街が、すごく綺麗でね。あらゆる業種の商店がいっぱい。中新田は一軒一軒みんなお店が大きくて老舗ばかりです。』

中新田・70代Tさん

子どもの頃の思い出のお話や、たくさんの商店と人で賑わっていた様子が伝わってきます。今の中新田の商店街はどうなっているのでしょうか。(昭和後期～平成)



『今は大型店舗があるでしょ。みんなそっちに流れていっちゃうからね。』

中新田・70代Sさん



『昔は土蔵造りがたくさんありました。今は田中酒造の1軒だけしかない。商店街の近代化という名のもとに店舗を改造してしまった。私は、土蔵造りのまちなみが落ち着く感じがします。』

中新田・70代Kさん

時代の移り変わりによって、商店街を取り巻く環境が大きく変わり、風景も変わってしまった様子が伺えました。



## 小野田商店街

小野田の商店街は、国道沿いに伸びているため、交通量がとても多い通りです。公共施設や郵便局など、生活に必要な機能が集約されているのが特徴的です。商店街のすぐ裏には、親水空間が整備されており、自然を近くに感じることができます。

① 国道沿いに建ち並ぶ看板建築



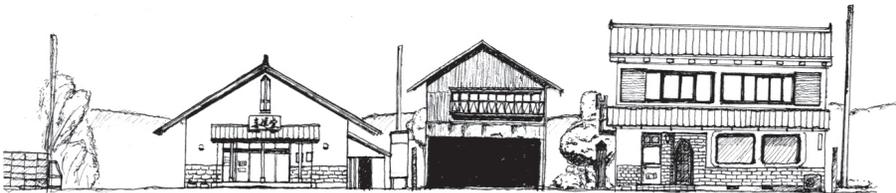
### 看板建築とは

普段良く見かける切り妻の建築の正面に、屋根を隠すように壁面を貼付けて飾ったものです。関東大震災後に多くつくられる様になりました。



### 特徴的なまちなみ

間口が狭く、看板建築が所狭しと立ち並ぶまちなみや、建物の合間から見える山々の風景は小野田の商店街を形づくっている特徴的なまちなみとなっています。



② 連立する建物の間口から見える山々



商店街の表と裏

小野田の商店街は国道沿いに広がっています。商店街は歩道の整備がなされておらず、歩くスペースがほとんどありません。商工会の脇から裏通りに抜けると、遊歩道が整備されており、そこから薬菜山を望むことができるスポットがあります。

3 小野田商店街を貫く国道



4 商工会小野田支所



5 商工会小野田支所東から見渡す薬菜山のある田園風景

住民の記憶(『加美町記憶の口述史』より)

小野田商店街のまちなみ

小野田の商店街は、国道沿いに立地しており昔から近隣住民の中心的な場所です。市やお祭りの思い出など商店街で行われていた当時の生活を垣間みることができました。(昭和前期～中期)



小野田・60代Tさん

『小野田のウジェスーパーの場所では陶器市が行われ、瀬戸物を売っていた。売り方が面白いんだよ。』



小野田・60代Tさん

『秋祭りでは商店街の人は仮装行列とあとは歌謡ショーをしていた。』

そんな中、近年ではスーパーマーケットの出現によって、商店をやめてしまった人もいます。中には、商工会が努力して新しいモノの売り方をしているところもあるようでした。(昭和後期～平成)

『今はインターネットも商売に使っている。こういうのは商工会全体で考えていかないと、生き残れない。』



小野田・60代Kさん



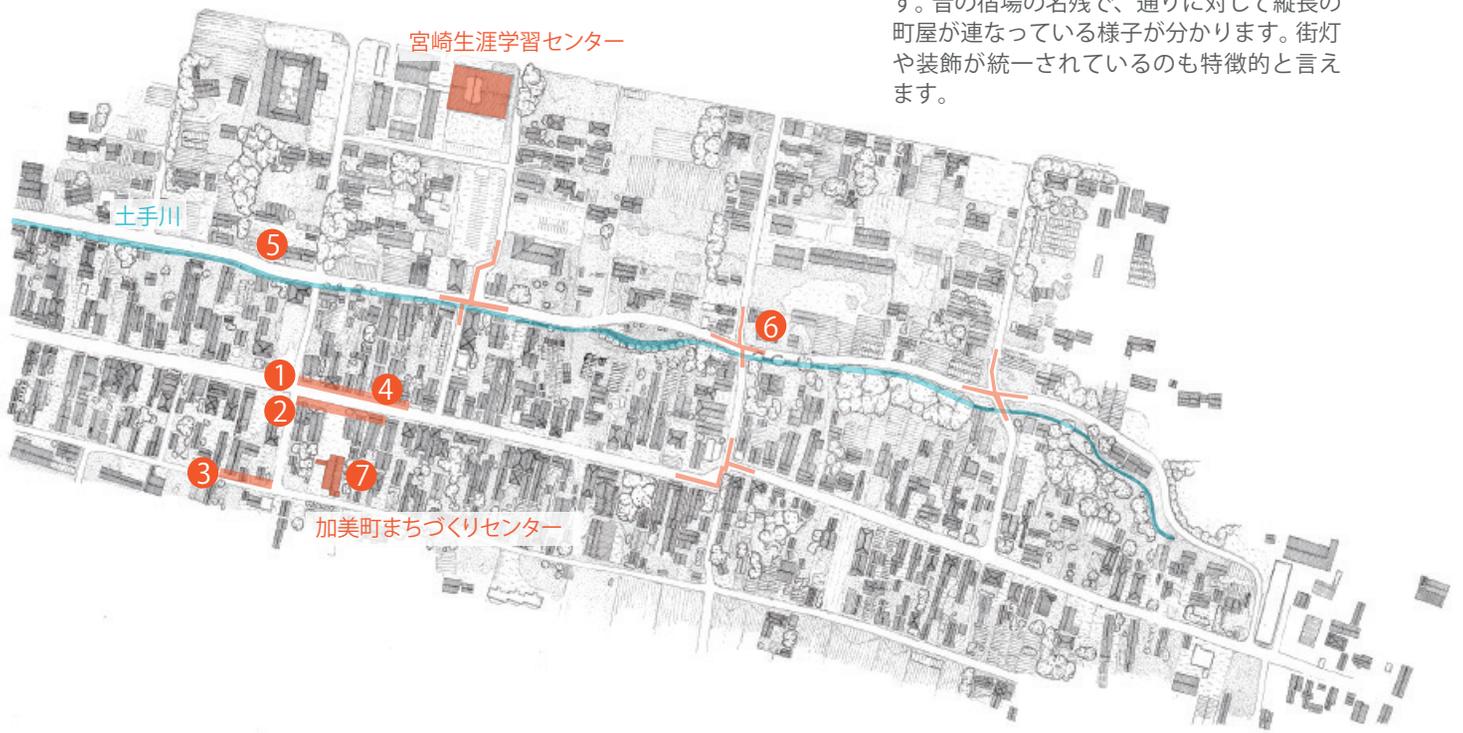
小野田・60代Kさん

『遊夕市は、お客さんがお年寄りばかり。各お店で立ち話のようなコミュニケーションが田舎でも難しくなっている。』

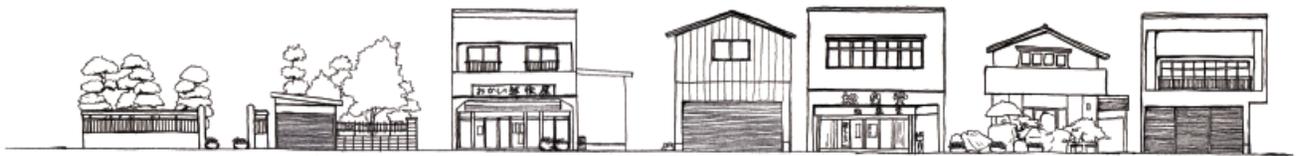
大型店舗の影響を受けて商店が減少してしまいました。加えて、昔あったようなお店でのコミュニケーションが減ってきている現状もあるようです。

## 宮崎商店街

宮崎の商店街は、商店だけでなくまちづくりセンター、住宅などが立ち並んでいます。昔の宿場の名残で、通りに対して縦長の町屋が連なっている様子が分かります。街灯や装飾が統一されているのも特徴的と言えます。



宮崎商店街 屋根伏せ図



① お菓子屋の立ち並ぶまちなみ



② まちづくりセンターとその周辺のまちなみ



③ 商店街裏通りの蔵のあるまちなみ

### 特徴的なまちなみ

商店街の通りに“加美町まちづくりセンター”があり、商店街の活動の拠点になっています。センター前には櫓があり、商店街の特徴ある風景と言えます。商店街の通り沿いに所狭しと立ち並んでいるのは、商店だけでなく住宅も含まれています。住宅と商店の混在は、宮崎の商店街の特徴的なまちなみと言えます。

裏通りには倉庫が立ち並び、その傍らには小さな祠、杭や資材置き場などがあり、生活が読み取れます。また、商店街の北側の通りには土手川が流れており、そこには裏通りと住居を繋ぐ橋がかけられています。

また、かつて侍屋敷があった頃のまちなみが残っており、敵の攻撃を防ぐためまっすぐな交差点ではなく、ずれていたり、緩やかなカーブになっているのも特徴の1つです。



4 まちづくりセンター周辺の商店街の様子

### 古くから続く店が多い商店街

宮崎商店街の中心に位置するまちづくりセンターの櫓は商店街のシンボルと言えます。まちづくりセンターでは、「みやざき特産市」が開催されるなど、商店街活動の中心でもあります。また、複数のお菓子屋さんをはじめ、お豆腐屋さん、呉服屋さんなど古くから続く店が集まっており、町内のみならず仙台からも商品を探して商店街へ訪れる人もいます。



5 通りと住宅をつなぐ土手川



6 まっすぐではない交差点



7 まちづくりセンターの正面

### 住民の記憶（『加美町記憶の口述史』より）

#### 宮崎商店街のまちなみ

宮崎の商店街は、お菓子屋さんなどの名店が残っているのが特徴です。昔から住民の方々に親しまれた商店であり、思い出話を聞くこともできました。（昭和前期～中期）



宮崎・60代Kさん

『100円を持って行って一本5円するシャーベットを買ったり。鈴木商店っていう場所。店のお母さんがともこさんだったから、ともこっつぁんと呼んでいた。駄菓子とか売っていた。』



宮崎・60代Kさん

『商店街は小さな店がいっぱいあったし、後継者もいて栄えていたよね。昔のお祭りはスケールが大きかったですよね。』

しかし近年では、商店が少なくなってきており、中には生活が不自由になったという声もありました。そのような中でも、宮崎商店街には元気なお店もあるようです。（昭和後期～平成）



宮崎・60代Aさん

『15年くらい前、大正堂では大判焼きやたいやきを売っていたよね。子供が寄るお店屋さんだった。』



宮崎・60代Kさん

『三嶋豆腐屋の長油揚げ、もんま菓子店の「がん月」などのお土産はわざわざ買いに行く。がん月は仙台からわざわざ買いに来る人もいるくらい。』

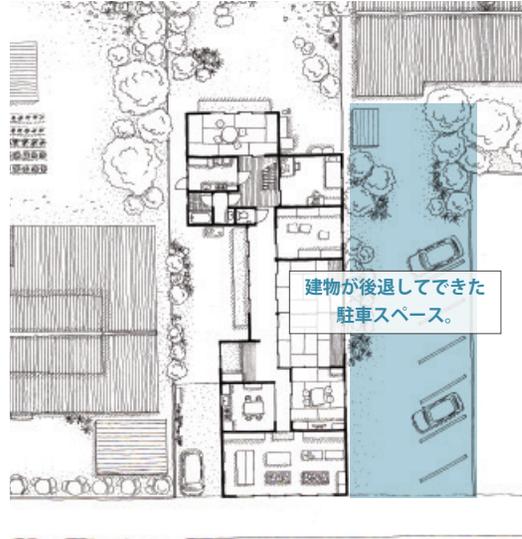
宮崎商店街は、お菓子屋さんや八百屋さんなど昔から続く老舗があり、お菓子などを求めて町外からも買いに来る人がいるほど評判が良いようです。それでも、昔と比べて商店が少なくなったことを嘆く声もありました。

# 加美町の暮らし

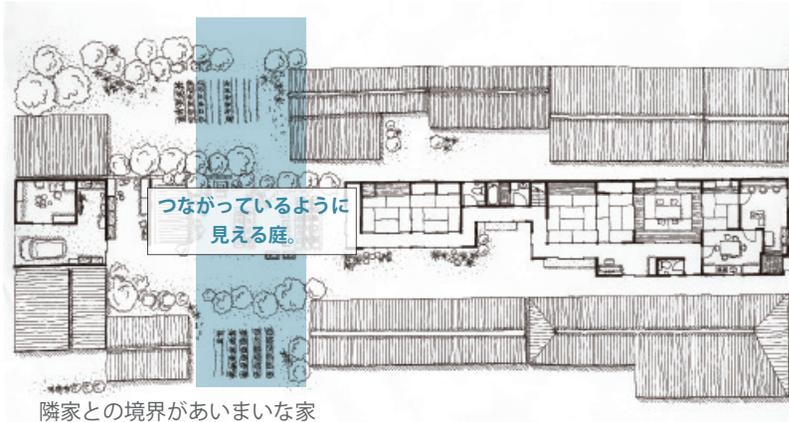
私たちは普段から人々の暮らしを目にしていますが、商店街ならではの住まいや農村風景を構成する居久根など様々な暮らしの特徴があります。また地域を盛り上げてお祭りは、今も昔も住民の楽しみの一つです。



木戸の残る家の平面図



建物が後退した部分の平面図



## 商店街ならではの住まい方

商店街の中の住まいでも、地域によって様々な特徴があります。どの地域も、大通りに面する商店とその奥に広がる住居部分という点は共通でした。その中でも、中新田の「木戸」という隣接する庭と庭を繋ぐ扉が残されている家屋であったり(左上図)、小野田では建替え時に後退して駐車場となっている場所もありました(右上図)。また、宮崎では庭の境界が曖昧で、隣の家と一体化して庭が広がっている特徴的なまちなみもありました(下図)。

## 住民の記憶(『加美町記憶の口述史』より)

### それぞれの住まいの思い出

それぞれ特徴的な住まいで、子供の頃はそれが遊び場にもなっていたようです。(昭前前期~中期)



『私が小学校の頃は、家の庭にはドアなしの通路がずっと続いていた。「木戸」というんです。色んな家の木戸を自由に通って、子ども達はどこにでも行けた。みんな顔見知りで、怒られることもなかったね。』

中新田・60代Kさん

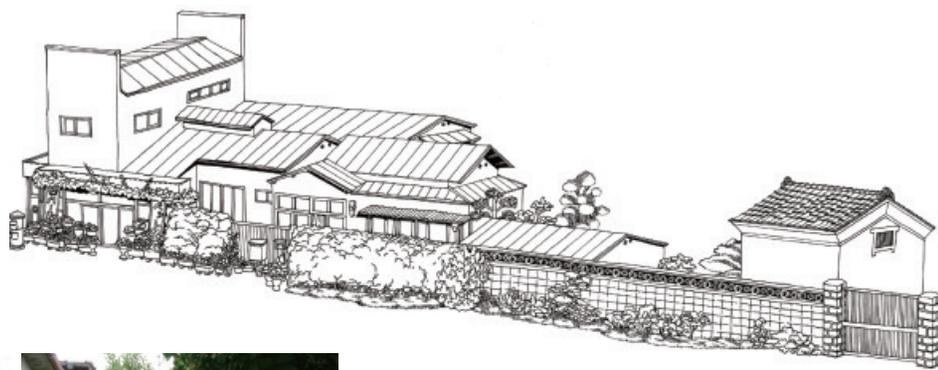
居久根も、昔とは状況が変わってきており、その必要性がなくなったことで切ってしまうところも多いようです。(昭和後期~平成)

「(今居久根は)『風を防ぐ』っていうよりも『倒れたら危ない』という方が強くなって切ってしまうことが多いんです。」



宮崎・60代Oさん

様々な理由で、当時は当たり前だった住まいの特徴も今では珍しくなっているようです。

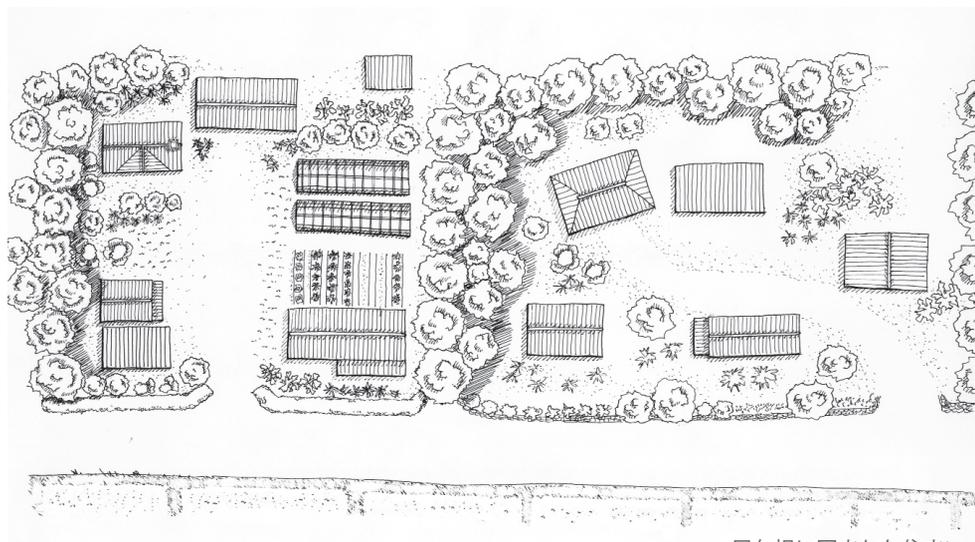


連続する屋根

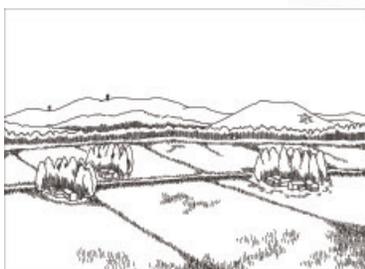


**市街地の住まいの工夫**

中新田の市街地では、住居のトタン屋根が積み重なって、複雑な形を作っています。増改築を重ねた建物の歴史が表れています（上図）。また、敷地と敷地間の細い水路に蓋をして、路地のように通り抜けできるようにしている場所も複数見ることができます（左写真）。



居久根に囲まれた住まい



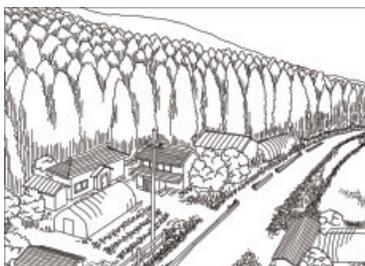
田んぼと山をのぞむ風景



田んぼに点在する居久根

**居久根に囲まれた集落の住まい**

小野田の集落では、住宅の敷地と道路が段差で区画されています。住宅の周りには、広い範囲で背の高い居久根が囲っており、敷地内には住宅だけでなく、家庭菜園などが配されています（上図）。宮崎では、田んぼの中に居久根が点在する風景、また山沿いに家や倉庫、田んぼなどが連なっている集落風景を見ることができます（左図、写真）。



山沿いの家並みの風景



山沿いの集落

## 加美町のお祭り

中新田で毎年4月29日に行われる虎舞は、県外からも多くの観光客を呼び込んで行われている代表的なお祭りです。地元の子どもも参加し、毎年大きな盛り上がりを見せています。その他にも、中新田の商店街では花楽市、小野田の商店街では遊夕市、宮崎の商店街ではナイトバザールといった商店街を盛り上げるイベントが行われています。また、商店街以外でも様々なお祭りが行われており、地域を盛り上げる恒例行事となっています。



火伏せの虎舞（中新田）



音楽フェスティバル（中新田）



遊夕市（小野田）



ナイトバザール(宮崎)

## 住民の記憶（『加美町記憶の口述史』より）

### お祭りの思い出

お祭りは子どもの頃の楽しみの一つだったようです。お祭りでにぎわっているお話がたくさん聞けました。なかでも虎舞は特別だったようです。（昭和前期～中期）



中新田・60代Sさん

『私が子供のとき、夏には地蔵通りに夜店が出た。ガス灯の明かりで、お祭りをしたね。ガス灯の匂い…カーバイトかな、あの匂いがすごく強烈に残ってるなあ。』



宮崎・60代Kさん

『熊野神社の春祭りでは、獅子舞が出るんだ。各地域の子供たちは、獅子舞が通る道に新しい砂を撒いていく役などをやっていた。当時は、地区のお祭りと子供たちが一体になっていたね。』



中新田・40代Tさん

『虎舞は商人の恩返しだった。この町は商業の町として近隣の人が買い物に来てくれていた。その人達へお酒を振る舞ったりしていた。』



中新田・30代Sさん

『商工会青年部は祭りで地場産品を使った料理を出しています。例えば加美町産の牛串をオリジナルで作って皆さんに売って、地産地消をアピールしたり。』



小野田・60代Oさん

『秋には文化祭とか、「べごっこまつり」というのがある。べごっこまつりは山の斜面でやってるんだよ。20年前くらいに始まったのかな。地場産品のを食べましょうっていうことで。』

新たなお祭りやイベントは、新しい客層を呼び込んだり地元の産業と深くつながっているものもあるようです。

# 加美町の自然

薬菜山や町内を流れる鳴瀬川、田川といった豊かな自然は、住民に親しまれ町に対する愛着を生んでいます。薬菜山は見る場所によって表情を変え、河川も上流と下流では人との距離や風景も違うといった特徴があります。また、まちなかや田んぼを流れる用水路からは生活との関わりを伺えます。



鹿原から見る薬菜山

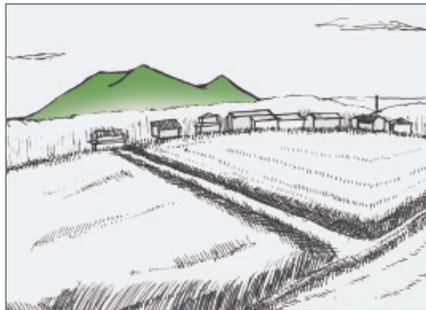
## 薬菜山

加美富士とも称され、薬菜山は加美町のシンボルとして多くの住民に親しまれています。山の形が富士山に似ているところから、古墳時代より東小富士、駿河小富士とも呼ばれていました。奈良中期に天然痘が流行したため薬師如来を山の上に祀ったことから、薬菜山という名称が付いたと言われています。

地域によって違って見える薬菜山の形や、季節によって表情を変える薬菜山など、住民は薬菜山を身近なランドマーク（目印）として捉えているようです。生活の一場で、ふと見える薬菜山の風景に加美町らしさを感じ、さらに薬菜山の大きさや形によって自分のいる大まかな位置を把握することもできます。



やくらい施設から見る薬菜山



西小野田から見る薬菜山



東小野田から見る薬菜山

## 住民の記憶（『加美町記憶の口述史』より）

### 薬菜山の風景

薬菜山は言わずと知れた加美町のシンボルで、小学校時代の話から大人になってからの話まで、たくさんの方から薬菜山にまつわるお話を聞くことができました。（昭和前期～中期）



小野田・60代Sさん

『(薬菜山で) 子供会という集まりを、夏休みでは毎日のようにやっていた。ここから薬菜山まで行く時間も、学校に行くのと同じくらいで、道中で家がない果物の木とかがあったらそこから頂いてくるのさ。』



中新田・70代Sさん

『「軌道っこ」っていう汽車があったんです。冬は、たまに汽車が滑って田んぼの中で止まっちゃうの。この辺は、薬菜山のふきおろしで吹雪がすごいから。』



小野田・70代Yさん

『好きな風景は旭橋の上から見た薬菜山の風景かな。「加美富士」って呼ばれてるのさ。稲がどっさり実った黄色い田圃と山、晴れた日に見ると澄んでいて、ほんとに良い景色なんだ。』

薬菜山で遊んだ楽しい思い出や、時には自然の猛威を目の当たりにするお話もありました。現在でも薬菜山はとても大きな存在感を示しています。（昭和後期～平成）

過去から現在まで様々なシーンを通して、薬菜山は加美町を代表する風景の一つとして認識されているようです。



鳴瀬川と田川の合流点



鳴瀬川上流付近



鳴瀬川中流付近



鳴瀬川下流付近

### 鳴瀬川

鳴瀬川は、加美町を流れる大きな二本の川のうちの一つです。上流の漆沢ダムから小野田を横断するように菓菜山の北側を通り、中新田でもう一本の川である田川と合流します。下流まで来ると河川敷が親水公園として整備されていたり、川と並行してサイクリングできる道が整備されており、気持ちの良い空間となっています。

### 田川

田川は、鳴瀬川と共に加美町の代表的な川です。奥羽山脈を水源とし、宮崎を横断するようにして中新田で鳴瀬川と合流します。中流には、増水時に道路ごと水の下に埋もれてしまう河床路など特徴的な道路もあります。



田川上流付近



田川下流付近

### 住民の記憶(『加美町記憶の口述史』より)

#### 川と生活の関係の変化

昔は、子どもの遊び場といえば川でした。友達と遊泳、魚釣りなど遊び盛りの子供たちにとっては、格好の遊び場だったようです。(昭和前期～中期)



宮崎・60代Hさん

『学校終わったらみんな家に来て、わらじでもはいて川にいったんだ。』



中新田・60代Iさん

『多田川で泳いだり、そっちこっち行ってたのさ。この川はうんと広がった。昔は名蓋川でも泳いだ。当時はどっちも土側溝だった。』



小野田・70代Kさん

『学校終わったらよく遊びに行くよ、もちろん学校はそれを禁止してましたがね、危ないから。でも子供はこれを楽しみにしてたね。』

しかし、近年では危険という理由で川遊びを禁止するところもあるようです。(昭和後期～平成)

昔は色々なところで川遊びをしていたのに、今ではその風景も珍しいものになってしまったようです。



小野田商店街の裏にある親水空間



住宅の裏を流れる水路



土手川の遊歩道

### 水の音のするまち

商店街から一本外れた道沿いに進むと、親水空間として整備された場所があります。目の前にそびえ立つ薬菜山と相まって、市街地でありながらとても心地よい風景が広がっています。また、まちなかには水路が通っており、清らかな水の音を聞くこともできます。

### 生活と水

田んぼの中を水路が走っている様子や、土手として整備されている水辺など、生活と近いところにも水の存在を確認できます。水路を跨いで家の裏口へ行くために、鉄板で橋を架けている生活の営みが色濃い風景もあります。



田んぼに必要な農業用水路



板を橋の代わりに



水路沿いに花がある風景

### 住民の記憶(『加美町記憶の口述史』より)

#### 水のあるまちなみ

加美町には大きな2本の川があり、歴史的にも川と生活の繋がりがとても深いと言えます。水にまつわるお話を聞くことができました。(昭和前期～中期)



中新田・50代Kさん

『用水路もコンクリートではなくて、土側溝で魚もたくさんいて、釣りなんかもした。』



中新田・60代Sさん

『中新田は、農業用水から水路が網の目のように分水して流れて、石畳になる前は「水の流れる音がする町」だった。』



中新田・60代Sさん

『鳴瀬川は、今は誰も手を加えていないので死んでいるんです。荒れ放題で、上流のすぐ周辺まで熊が来ている。全然整備されていない。』

しかし、川と遊びの関係と同じように、川と生活の関係も近年は薄まりつつあるようです。(昭和後期～平成)

生活との関わりがなくなると、手が加えられなくなり結果的に荒れてしまうといった問題もあるようです。

# 1-4 加美町の抱える課題

## ■加美町の現状の課題とは

加美町の現状の課題を、「1-3」と同様になりわい、暮らし、自然の3つのテーマに分類しました。「なりわい」は商店街や農業、観光といった課題、「暮らし」は集落や住民の交流に関する課題、そして「自然」は自然資源の管理に関する課題が見られます。また、それぞれのテーマの課題は、町の根底にある「社会の課題」と目に見える「風景の課題」とに分けられ、風景の課題を引き起こしている原因に社会の課題があることが分かります。つまり、風景だけに目を向けるのではなく、その原因から総合的に考え、まちづくりに取り組む必要があると言えます。

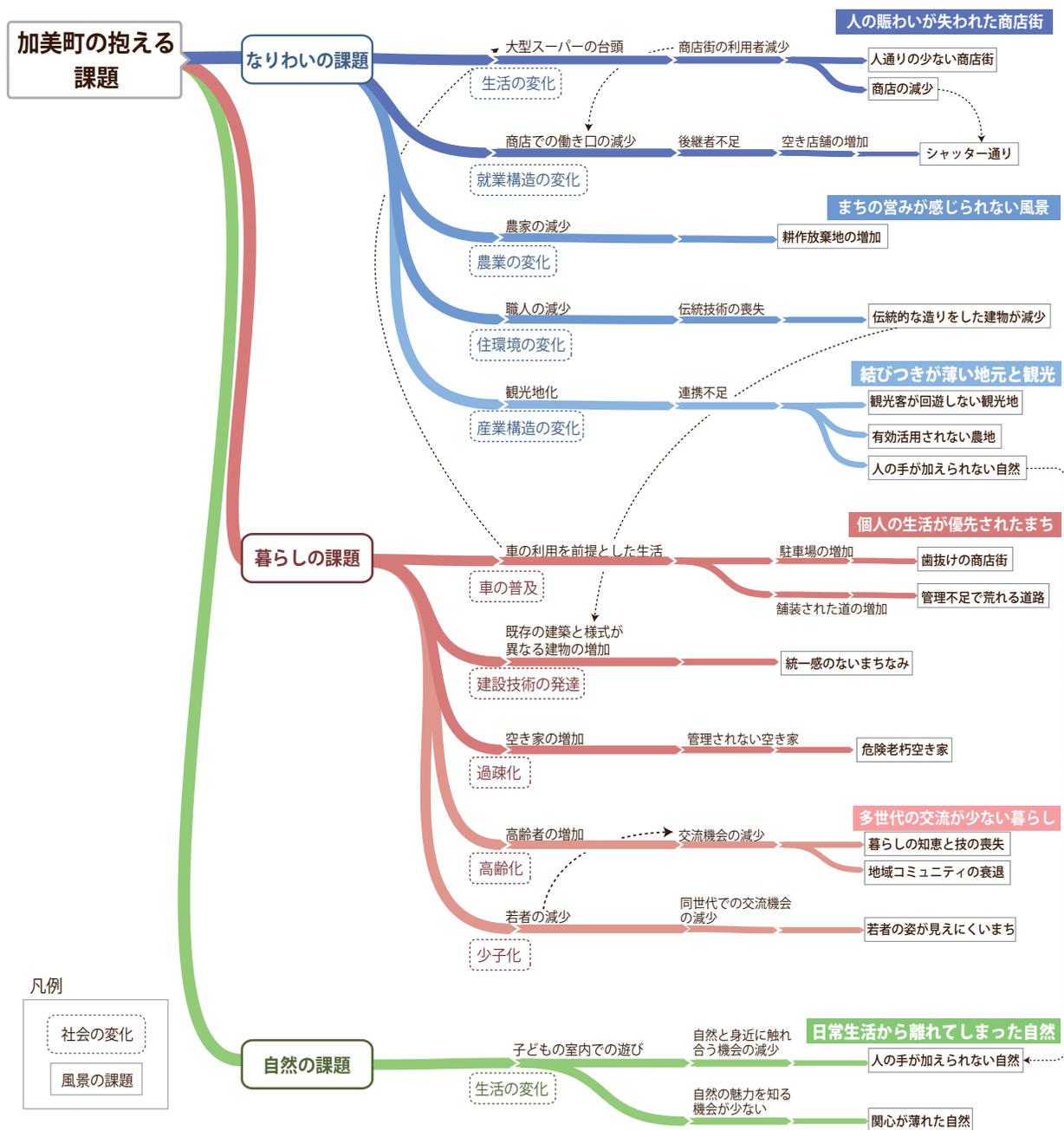


図 加美町の現状の問題の整理

# なりわい

## ■ 人の賑わいが失われた商店街



### 社会の課題

- 近年になって大手スーパーが進出したことによって、商店が減少している現状にあります。
- 商店街では若者が働き口を求めて外に出て行ってしまふことによって、後継者不足を引き起こしています。



### 風景の課題

- 町中を歩く人は減ってしまい、そして、大手スーパーへ行く車の通行が増え、より人が歩きにくい町になっています。
- シャッターを下ろしてしまった商店が目立ち、さらに商店街の賑わいが失われてしまいました。

## ■ まちの営みが感じられない風景



### 社会の課題

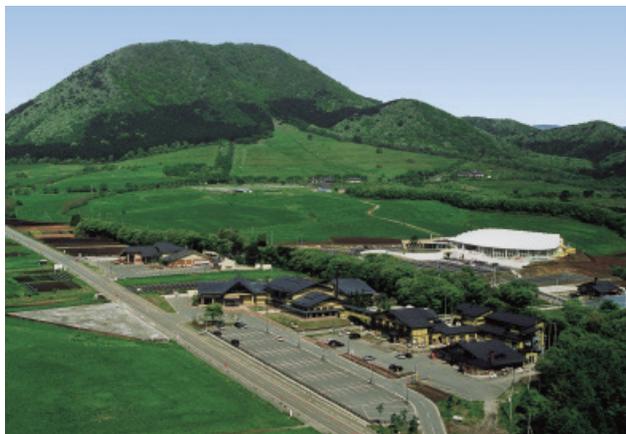
- 米価の下落や少子化による後継者不足、他産業への従事などの要因により、農家は減少しつつあります。
- 利便性などを求めた住環境の変化により、大工や石工、庭師といった職人が減少しその技術は失われつつあります。



### 風景の課題

- 耕作放棄地などの荒れ地がみられるようになりました。
- かつて多く見られた茅葺屋根の民家など、伝統的な造りの建物が少なくなりました。

## ■ 結びつきが薄い地元と観光



### 社会の課題

- やくらいや陶芸の里などの観光地では、それぞれが事業を展開しており、連携による相乗効果を生み出していません。
- 直売所以外の観光施設では農家などの結びつきが弱く、観光による収入が地元産業に対して経済循環しない状況にあります。
- 観光地では自然資源の有効活用が不足しています。



### 風景の課題

- 観光客の動線が単純なものとなり、観光客による賑わいが拡大されていません。
- 農産物の生産拡大につながらず、耕作放棄地を含めた農用地の有効活用が図られていません。
- 観光に活用できる自然に人の手が加えられなくなり、美しい自然が荒れてしまいます。

## 暮らし

### ■ 個人の生活が優先されたまち



### 社会の課題

- 高度経済成長期以降のモータリゼーションの進行により、移動手段が徒歩から自家用車へと転換しました。
- 家の構造も利便性や快適性を求めるようになってきました。
- 少子高齢化や過疎化により、空き家や空き地が増加し、さらに、管理されていない空き家も増えています。



### 風景の課題

- 道路の舗装化が進みましたが、管理が行き届かず損傷し、雑草などで荒れている道路も見られます。また、商店街の空き地などでも駐車場が増えています。
- 伝統的な蔵などかつての建物は建築されなくなり、特徴的な家並みが減ってしまいました。
- 管理されず老朽化が進んだ空き家は、倒壊の危険や環境衛生面の悪化など様々な問題を引き起こしています。

## ■ 多世代の交流が少ない暮らし



### 社会の課題

○昔はお年寄りと子供たちが一緒にお茶を飲みながら、世間話しをするような風景がよく見られましたが、今では子供たちが減少し高齢者の一人暮らしも増え、隣近所の関係も希薄になりつつあるため、世代間での交流が少なくなっています。

○若者同士の交流するきっかけや場所がない状況にあります。



### 風景の課題

○加美町の景観を支えてきた先人の暮らしの知恵と技が次の世代に伝承されなくなります。また、地域コミュニティによって支えられてきた風景の維持も困難になります。

○若者の力によって維持されてきた風景を保つことが困難になります。

## 自然

### ■ 日常生活から離れてしまった自然



### 社会の課題

○かつては自然の中で遊びながら学んでいましたが、最近の子どもはゲームやテレビ、本など、家の中での遊ぶことが多くなり、自然の中で遊ぶ機会が減ってしまいました。



### 風景の課題

○自然との関わりがなくなることで、人の手も加えられなくなり身近な自然が荒れてしまいます。

○地域の自然の魅力を知らない子どもが増えると、自然に対する関心もなくなり、恵まれた自然環境を守ることができなくなります。

